

## 1 開 会

## 2 地域政策部長あいさつ

## 3 自己紹介

## 4 議 題

### (1) 正副委員長の選任について

委員長 公立大学法人島根県立大学浜田キャンパス  
准教授 佐々木 真佑 氏

副委員長 島根県西部県民センター石央地域振興課  
課 長 坂根 愛子 氏

### (2) まちづくり総合交付金について

- ・まちづくり総合交付金制度の説明（資料 1.2.3.4.5 参照）
- ・前回の見直し（中間検証）について（資料 6-1.6-2.7）
- ・今後のスケジュール（資料 8）

### (3) 意見交換

(新森委員)食糧費 1,000 円を超えてはいけなくなっているが、1,500 円くらいにならないか。超過した部分は自治会が負担しているが、自治会も高齢化や脱退などあり収入が減っている。まちづくり総合交付金は大変ありがたい制度。

(佐々木委員長)私の記憶の範囲では、そういった意見もある一方で 1,000 円でも十分やっつけていけるといふところもあった記憶がある。

(永田課長)物価も上がっており、他のまちづくり委員会からも食糧費上限上げてほしいという声もある。この中で検討を行っていく他、今後アンケート調査も行い、その結果も踏まえながら最終的にこの会の中で決めていけたらと思う。ただ、食糧費の上限を上げたから交付金全体が増えるというのは難しい。

(久谷委員)資料で収支は出ていないが、各まちづくり委員会で予算額に対していくら使っているのかがわかるとまちづくりに対してどのように進めていこうという指針になるのでは。また、事業計画を立てても予算面で難しい部分もあるので予算をそれほど使わなかったところからもっと必要とするところに回すという取り組み方も一つあるのでは。

(永田課長)どのようにお見せするのか検討させてもらい、次回のところ

でお示しできればと思う。使われていなかったからそれを回すというのは難しいところがある。今の制度で課題解決特別事業という交付金とは別枠のものがあるので活用いただければと思う。また、まちづくり委員会であれば3年先に計画した事業のために少しずつ積み立てて、積み立てたものとその年の交付金で事業を行うなど色々な使い方もできるので組み合わせをしながら事業検討していただきたい。

(佐々木委員長) 予算の執行率はほぼ100%か。

(永田課長) 大体100%。まちづくり委員会で繰越ができるので、満額貰って翌年度の4月の事業に使うことも制度上できるので基本的には満額。単独自治会は翌年度の額から繰り越した金額を差し引き、交付する形になる。執行率ということであるとどの団体も満額申請しておられ、最初から減額して申請というのはほとんど見受けられない。

(田中部長) 多くの団体が自主財源を持っており、総合交付金と合わせて少し大きめの事業をやっておられるのではないかと思う。その中でできるだけ交付金を充てていくということになるので、この交付金は執行率が高いのだと思う。

(佐々木委員長) 他の取組みを知りたいという話が令和5年度に出たと思うが、それは今できるような状態になっているのか。

(永田課長) 課題解決特別事業についてこういう事業をしましたよということで紹介したり、事例集を作成したものをホームページや、それぞれの団体に資料を送付している。

(岡田委員) 資料2の4について。課題解決の金額が年々減っているように見て取れるが、これは前年度の実績の金額によって下げているということなのか。下がっている理由は。

(原田係長) 前年の実績を考慮しながら中の総枠のところ調整しているので、今回は課題解決が400万と減額をしている。

(岡田委員) 事前に要望等の聴取はあるのか。

(永田課長) 課題解決については事前に要望を取りまとめたの積み上げではなく枠を設けてその年の中でその年に募集をかけて手を挙げてやってもらう形。積み上げた額での予算額ではない。

(岡田委員) それぞれのまちづくりで事業計画を立てたりする上で、課題解決に該当するような事業をしたいという場合に、ある程度事前の聴取が必要ではないか。

(永田課長) 前の年に事前調査をして積み上げるという方法も一つあると思う。課題解決は審査をして通る、通らないというところもある。大体総額としてはそう大きく変わってはいない。以前は募集時期が遅く、なかなか事業ができないという意見も踏まえ

て今年も4月当初から募集をかけている。事前に聴取することも可能ではあるが、基礎額を出してからでないと課題解決の予算を確保しにくいというところもあると思うのでそういったところも踏まえながらまたご意見をいただけたらと思う。

(坂根委員)やりたいからお金が足りない課題と、やりたくてもどうにもできない課題があると思う。やりたい方はこれが課題だとわかるが、できない方を課題解決としてどう取り扱っていくか。

(永田課長)まちづくりセンターの職員や、地域によっては地区サポーターという制度を取り入れて職員も入れているので、課題の掘り起しなどの対応はそちらで今後しっかりやっていけたらと思っている。できないことに対する対応というところまでは踏み込めていないというのが現状。

(新田委員)人が多いから交付金を使う場合と人が少ないから交付金が必要になる場合がある。昨年、通常であればちょっとしたイベントしかできなかったが課題解決を使えて本当に良かったと実感している。

(永田課長)相談があったから提案できた。地域の方と私たちも含めてまちづくりセンターも含め職員など相談できる間柄を作っていくことでやりたいことができないということへの対応というところが解消されていくのではないかと思う。

(佐々木委員長)場所によって違うとは思いますが、交付金全体で平均的に見たときに何が一番多く使われているのか。

(永田課長)実績報告や申請を見るとやはり事業費。あとはまちづくり委員会の中にそれぞれ各町内会自治会がある中でそちらに対する交付金という形でそれぞれの町内で活動するための資金をまちづくり推委員会を通しておろしているところが一番大きいかもしれない。町内会は町内会で盆踊りなどの事業を行って、まちづくり委員会も地域全体のイベントをやっている。

(佐々木委員長)資金があっても担い手になってくる人がいないから動きようがないというところはどうする。

(永田課長)大学生にもいろいろ地域に出て行ってもらっている。今までは地域の方が迎えに行ったり交付金を使ってタクシーをお願いしたりして移動の諸経費を地域の方で見えていたが、今年から学生版あいのりタクシーが始まり大学生が地域に出向く分の経費を市から補助している。そういったところを使用して学生の力を借りながら活動が活発になればと思う。

(佐々木委員長)車を持っていない学生がとても多く、ほとんどバス移動。学生版あいのりタクシーの制度はいいと思うが、それ以前にこの地域でどんなイベントをやっているという情報を知らない

学生が多い。ゼミの先生が個人的にこの地区とつながりがあって学生が行って助けている、一緒にやっているケースは結構あるが、学生が個人的に見つけて行ってみようかなという風になっていない。若い人たちと地域それぞれの計画、いっどんなことをやろうとしているのか情報をつなぐ仕組みが必要。課題解決事業で頑張ってきたイベントの状況を大学の連携交流課に投げてみて、学生周知してもらいたい。そういう意思を持った学生は多いと思う。

(永田課長)情報提供させてもらえたらと思う。

(田中部長)大学の方にもゼミの活動やクラブ活動であればバスを出したりできる制度があったかと思う。市の方でこの度学生版あいのりタクシーが出始めたのは、ゼミではなくて個人で動いておられるボランティアがたくさんおられ、そういった方が交通費の負担があるので地域に中々行けないというような声を今までにいただいたのでぜひやっていただこうと今年度から始めたところ。まずはそういったところで地域に出向いて貰えるような環境を作りたいと思っている。総合交付金についても、制度の方はじっくり見ていただければと思うが、人口が今、減少傾向にある段階で、普通に計算すれば人口が減った分交付金も減っていく。この中で面積割など最低限定額で確保できる。また、皆さんから色々声を出していただけて少しずつ補助金を充実させてきているところ。今回総合交付金を検討いただくが、平等にといった感覚で行ったり、食糧費についても前回の検討で1,000円に収まっているのは上げてくれという声の一方で公費をそれ以上使ってもいいのかということがあった。これも考え方だと思う。そうした中で交付金では対応できないものも別の支援事業で色々検討していくので、地域、地元で色々な声を聞いてこちらの会議でご披露いただければと思うので協力をお願いしたい。

(岡田委員)交付金と別で申し訳ないが、学生版あいのりタクシーについて。学生版のあいのりタクシーの使い道は地域交流に限るのかももう少し広範囲に使えるのか使い道は限られているのか。

(田中部長)今年から始まった制度なので少しずつ固めていくところはあるが、おっしゃる部分というのはある程度決めていかなければいけない。例えばただイベントにお客さんとしていくのは違うのではないかと。企画段階や当日のお手伝いも含めて地域を支えるようなことにすべきではないかということで大学の事務局に采配をお願いしている。

(坂根委員)色々お話を聞いて、浜田は自主財源をつくる地域が多いとい

うことに驚いている。うまくいっている地区の交付金の使い方と、人口や年齢別だとかそういうところを分析しながら何に使ってどのようにこの人たちが動いたからうまくいっているのかというようなところをまた教えていただきたい。

(永田課長)細かいところまでの分析は今までしたことがないが、まちづくりフォーラムでまちづくり推進委員会が取り組んだ事業を発表するというような取り組みもやっている他、事例集を作って紹介等はしてきている。分析は少し難しいところがある。

(佐々木委員長)使う人たちがわかりやすく、何が使えるかわからないときにワンストップで相談できたり情報を得られるところがあればと思う。

(佐々木委員長)今日は皆さんから活発な意見をいただき色々な課題があるということがよくわかった。本日出た意見については、事務局で整理する。

#### (4) 今後の予定について

第2回まちづくり総合交付金制度検証・検討委員会

時期：令和7年7月中旬頃（予定）

5 その他

6 閉会